

1 なぜ「増加と減少」の句動詞が重要なのか

この章では、増加と減少の意味をもつ句動詞についてお話しします。

第5章でお話したように、液体、エネルギー、増加、減少、強さ、拡張に関わる動詞は自動詞と他動詞の両方であることが多いのです。

flood, cool, spread, reduce, strengthen, widen, etc.

したがって、増加と減少に関わる句動詞が同じパターンに従うことは驚くにあたりません。なぜなら、「増加」は「広がり」または「強化」の一種であり、「減少」は「縮小」の一種であるからです。

以下 p.178からお目にかけるリストでは、これらの句動詞に関する2つの文法情報を明確にしています。

- 1) 目的語とパーティクルの位置関係 (名詞と代名詞での違い)
- 2) 句動詞のタイプ分け (自動詞か他動詞か、その両方か)

2 文法情報 1) 目的語とパーティクルの位置関係

第一に、すでにお話しているように、目的語が名詞か代名詞かでパーティクルとの順番が変わる場合があります。

目的語が代名詞の場合は必ず「動詞と名詞の間」に置かなければならない句動詞 (すなわち、タイプ②句動詞) には、例文やフレーズにアスタリスク*を付けました。

念のため確認すると、目的語が (代名詞でなく) 名詞なら、以下の2通りの言い方が可能です。

- I **toughened** the rugby players **up**.
- I **toughened up** the rugby players.
「私はそのラグビー選手たちを強くした」

しかし、代名詞の場合は次のようにしか言えません。

- I **toughened them up**.
「私は彼らを強くした」
- (×) I **toughened up them**.

このことをみなさんに思い出させるために、以下の例ではこれらのオプションの最初のパターン (toughen the rugby players up) を使用しました。すなわち、以下のリストにあげた実際の見出しの語順は文法的なパターンを明示しています。

ただし、目的語が名詞であれば2つのオプションがあるといっても、かなり長い名詞句である場合、この名詞句を動詞とパーティクルの間に置くと不自然でぎこちない言い方になる可能性があります。

- I **toughened** the rugby players who had just arrived from New Zealand **up**.
「ニュージーランドから来たばかりのラグビー選手たちを強くした」
【注】 I **toughened up** the rugby players who had just arrived from New Zealand. の方が自然な言い方
- The fans **packed** the recently built auditorium **out**.
「ファンたちは最近建てられた講堂を満員にした」
【注】 The fans **packed out** the recently built auditorium.

以下の例では、名詞の長さを許容範囲内にしてあります。